

科目名（英文表記）	地域経済・経営Ⅱ（北海道でのビジネス創造） （ Regional Economy and Management Ⅱ ）		
科目区分	基礎科目	単位数	2 単位
担当教員名	千葉俊輔（非常勤講師）	ナンバリング	MBA_C_EM 5221
研究室番号	なし	研究室電話番号	なし
Eメール・アドレス	t-chiba@hamanasu.or.jp		
授業の内容及び方法： 次頁以降に記載			
授業の目的と到達目標： <p>北海道における産業クラスター創造活動と地域活性化に関する具体的なビジネス事例から、地域ビジネスの特徴を理解し、成功するためのポイント等を習得する（産学連携を含む）。</p> <p>特に、地域ビジネスの中には、近年、地域課題をビジネス手法で解決しようとする中間組織（コミュニティービジネス・ソーシャルビジネス（CBSB））が増えており、地域社会にとって重要な役割を担っている。障害者雇用を進めている会社、地域課題を解決する小さなビジネスなど具体的な事例から、様々なステークホルダーに配慮した経営の重要性を理解するとともに、コミュニティービジネス・ソーシャルビジネスの経営の基本的な考え方やノウハウを習得する。</p> <p>更には、最近では、人口減少社会の到来とともに、“地域経営”の視点から、自治体とこれら中間組織との連携による地域課題解決や地域活性化の動きが出てきている。ここでは、地域経済循環の手法等を習得し、地域経済循環を促進するためのビジネスアイデアを検討する。</p> <p>最終的には、コミュニティービジネス・ソーシャルビジネスのビジネスプランを作成、発表する。本科目を通して、履修者には地域課題をビジネスの手法で解決する術を習得していただきたい。</p>			
使用教材： <p>基本的には、事前に資料を用意し配布するが、次の著書については、講義で使用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 坂本光司著「日本でいちばん大切にしたい会社」 あさ出版 2008 2. 駒崎弘樹著「社会を変えたい人のソーシャルビジネス入門」 PHP新書 2016 3. 枝廣淳子著「地元経済を創りなおす」 岩波新書 2018 			
成績評価の方法： <p>出席、事前事後課題、授業参加、レポート（最終課題）の区分ごとに、合計する。 出席：10% 事前事後課題：30% 授業参加（ディスカッション）：20% 最終課題：40%</p> <p>評価結果については、請求があれば判定の根拠を本人に開示する。更に、評価に不服のある場合は、不服申し立てをもって教務委員会に申し出ること。</p>			
履修上の注意事項： <p>事前事後の準備は勿論のこと、講義中も積極的に意見を発表すること。講義中における意義ある発言は、授業参加（ディスカッション）の評価に反映する。</p>			

授業の内容及び方法

モジュール 1		産業クラスターと地域経済の活性化
事前準備	事前に配布の資料を読み、北海道経済と北海道におけるビジネス創造の特徴を理解する。	
第 1 時限	北海道経済の特徴と産業クラスター創造活動について理解する。	
<p>授業全体の狙いと内容、最終課題について説明する。また、本時限では、北海道経済の特徴と20年前から進めている産業クラスター創造活動など地域経済活性化の動向について理解する。</p>		
第 2 時限	ビジネス創造のパターンと地域特性に応じたビジネス創造の特徴を理解する。	
<p>ビジネス創造の4つの工程と地域特性に応じたビジネス創造について理解するとともに、それぞれの特徴、成功するためのポイントについて学ぶ。</p>		
復 習	北海道において今後進めるべき（成功する可能性のある）ビジネス創造について論じる。1600字程度（A4版1ページ程度）。	

モジュール 2		産学連携ビジネスと食の付加価値化ビジネス
事前準備	事前に配布の資料を読み、産学連携ビジネスや食の付加価値化ビジネスの特徴と留意点を理解する。	
第 3 時限	産学連携ビジネスの特徴と成功ポイントを理解する。	
<p>大規模な産学共同研究からのビジネスづくりから、課題解決型の産学連携の製品開発まで具体的なプロジェクトから、市場やニーズの重要性、知的財産権の取り扱い、コーディネートの役割、技術や製品の応用性などについて学ぶ。</p>		
第 4 時限	食の付加価値化(六次化・農商工連携)の成功ポイントを理解する。	
<p>北海道の地方で多く取り組まれている「食の付加価値化（六次化・農商工連携）」プロジェクトの事例から、成功するためのポイントなどを学ぶ。</p>		
復 習	コーディネーターとして、近年普及し始めている「ドローン」など新技術を活用した新規ビジネス創造のためのプロジェクト(概要)を組み立て、事前配布のシートに作成する。	

モジュール 3		ビジネスの目的と中間組織の今日的意義
事前準備	坂本光司「日本でいちばん大切にしたい会社」を読み、経営の本質を理解する。	
第 5 時限	ビジネスの目的や本質を理解する	
<p>最近では、CSR経営からSDGs 経営へと株主以外の多くのステークホルダーに配慮した経営が求められている。具体的な良い企業経営の実例から重要なポイントと経営の本質を理解する。</p>		
第 6 時限	中間組織の今日的意義	
<p>近年の新自由主義政策による中間組織の拡大と人口減少社会における中間組織（コミュニティービジネス・ソーシャルビジネス（CBSB））の重要性を理解する。</p>		
復 習	経営者という立場に立って、何を大切に経営していくかを、1600字程度（A4版1ページ程度）で論ぜよ。	

モジュール 4		ソーシャルビジネス
事前準備	駒崎弘樹「社会を変えたい人のソーシャルビジネス入門」を読み、ソーシャルビジネスの意義、創業から経営までのポイントを理解する また、具体的なソーシャルビジネスのアイデアを検討する。	
第 7 時限	具体的な経営事例の紹介（障害者雇用）	
<p>ゲストスピーカーによるソーシャルビジネス（障害者を雇用した企業経営と障害者福祉事業）と障害者特例子会社の経営について学ぶ。</p>		
第 8 時限	障害者雇用から見るソーシャルビジネスの経営手法の習得	
<p>障害者雇用のビジネス事例からソーシャルビジネスの意義、経営のポイントを理解するとともに、駒崎弘樹「社会を変えたい人のソーシャルビジネス入門」から、マネタイズ、競争力ある商品・サービスの創出など成功のポイントを学ぶ。</p>		
復 習	身近な地域社会の課題解決のためのソーシャルビジネスの概要を事前配布の提案シートに作成する。	

モジュール 5		コミュニティービジネス
事前準備	事前に配布の資料を読み、北海道におけるコミュニティービジネスの現状と課題について理解する。	
第 9 時 限	具体的な経営事例の紹介（スポーツ・観光）	
	ゲストスピーカーによるコミュニティービジネス（地域スポーツ育成または観光関連）とコミュニティービジネスの意義、課題などについて学ぶ	
第 10 時 限	地方でのコミュニティービジネスの可能性	
	富良野や沼田などのまちづくり会社、地域おこし協力隊など移住者によるコミュニティービジネス（地域商社、ガイド事業、コミュニティーカフェなど）の事例から、地方におけるコミュニティービジネスの可能性について学ぶ。	
復 習	コミュニティービジネスの概要を事前配布の提案シートに作成する。	

モジュール 6		地域経営
事前準備	枝廣淳子「地元経済をつくり直す」を読み、域内経済循環の重要性を理解するとともに、設定された地域の実態を分析し、地域経済循環のための方策を検討し、まとめておく。	
第 11 時 限	具体的な地域経済循環のための方策の発表	
	各自、事前準備で作成した「地域経済循環のための方策」を発表するとともに、各自の発表について、その方策の実現可能性、効果などについてディスカッションを行う。	
第 12 時 限	地域経営の意義、内容について理解する	
	ビジネス視点からの地域課題の取り組みの必要性、取り組むべき課題、行政とコミュニティービジネスとの連携などについて、具体的な事例から学ぶ。	
復 習	事前準備で検討した方策の中から、域内経済循環を促進するための具体的な方策について、その概要を作成する。	

モジュール 7		CBSBのビジネスプランの作成
事前準備	具体的なコミュニティービジネス・ソーシャルビジネスのビジネスプラン作りに取り組む。	
第13時限	コミュニティービジネス・ソーシャルビジネスの概要の発表	
各自、いままでの授業の中から、具体的なコミュニティービジネス・ソーシャルビジネスのビジネスプランを作成し、発表する。		
第14時限	ビジネスプランに関するディスカッション	
各自、発表したビジネスプランについて、全員でディスカッションを行い、ビジネスプランのブラッシュアップを行う。		
復習	各自、ビジネスプランのブラッシュアップを図ること。	

モジュール 8		最終課題（CBSBのビジネスプラン）の発表
事前準備	各自、ビジネスプランのブラッシュアップ	
第15時限	コミュニティービジネス・ソーシャルビジネスのビジネスプランの発表（最終）	
各自、具体的なコミュニティービジネス・ソーシャルビジネスのビジネスプラン（最終）を発表し、相互にコメントする。		
復習	各自、作成したビジネスプラン（最終成果）を提出すること。	